

実践研究部会は『自社取組みを語り、他社取組みに学ぶ!』をモットーに、課題解決の「気づきの場」となるよう、経営改革、組織改革に取り組む実務者を支援しています。

【過去の討議課題事例】

- ・イノベーション革新活動の活性化
(経営革新、業務改善、風通しの良い風土になるには?)
- ・社内の顧客認識の統一
(顧客認識の不統一をどうすればいいのか?)
- ・経営品質活動の活性化
(経営品質活動活性化への推進部門の役割は?)
- ・会社の全体最適化
(全社課題対策と社員モチベーションアップするには?)
- ・新規ビジネスを創出できる人材
(オリジナル商品を生み出すための組織体制とは?)
- ・CS調査からの現場改善
(経営品質推進部門が現場(営業)を動かすには?)

【過去の参加メンバーの声】

- ・「引っ張っていく!」から「みんな考えてみて!」に変わった。
- ・問題点の見える化をするようになった。
- ・参加することで現状が整理できた。
- ・仕事・会社のことを話すことで精神的に楽になった。
- ・他社事例を聞き、大変な時期から変化するさまが参考になった。
- ・皆さんの取組みを聞くことにより自らを振り返ることができた。

【現在(第9期)の活動】

- ・実践研究部会は9期を迎え、今年も10名近くの方に参加頂き、理事3名と運営委員5名の計8名で参加者を支援しています。
- ・研究部会は、原則、毎月1回開催(18:30~20:30)しています。
 - ・参加者には課題(悩み・苦労等)とその背景について発表いただき、参加メンバーとの質疑応答や助言から、課題解決へのヒント・気づきを得るよう運営しています。(発表内容等は全てオフレコです)
- ・研究部会を「さらなる気づきによる相互研鑽の場」とするため、支援メンバーによる運営反省会&懇親会を開催し、毎回運営方法を工夫しながら活動しています。

<主な運営方法>

- ・ 発表者討議課題の事前送付
 - 参加メンバーの事前検討
- ・ 討議シナリオ作成
 - ファシリテーションの導入による全員参加型討議
- ・ アイランド方式レイアウト採用
 - 参加メンバー、支援メンバーとのグループ討議
- ・ 発表者へお土産
 - 討議事項メモを作成し、発表者にお持ち帰りいただく

【今後の活動】

- ・ 発表者の「気づき」をその後の取り組みに活かせるように、発表後のフォローアップを検討しています。このため、「討議課題」に対して経験のある方を募集しています。
- ・ 実践研究部会が、経営革新を志す仲間の人的ネットワークの一つになればと考えています。